



SUPPORTERS CLUB NEWS  
**友の会 会報**  
TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

〒039-2501  
青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94  
七戸町立鷹山宇一記念美術館内  
鷹山宇一記念美術館友の会  
TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860

# 鷹山宇一記念美術館友の会 平成14年度通常総会を開催

平成14年度鷹山宇一記念美術館友の会通常総会が、6月7日(土)美術館2階工房において開催されました。平成13年度事業報告書・収支決算書の承認をはじめとする全議案が原案どおり承認され、今年度の事業体制が整いました。

各議案の内容については別紙資料として添付いたしましたのでご参照下さい。また、例年総会終了後に開催しておりました美術講演会は、本年度は日を改め美術館特別企画展「東郷青児展」の開催に合わせて、下記のとおり予定しています。是非ご聴講下さい。

本年度も、会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

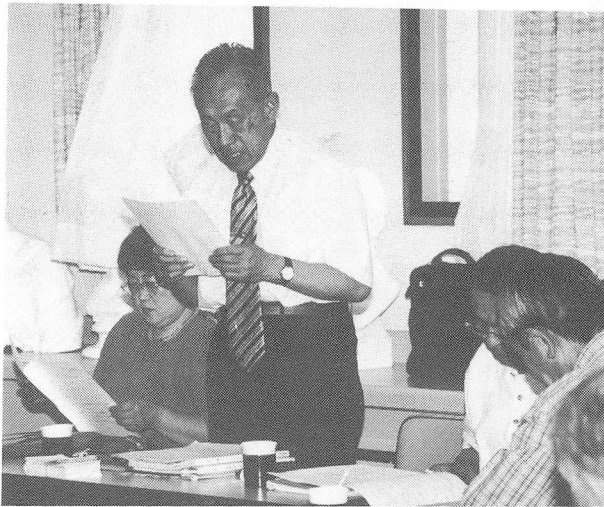


▶ 通常総会にて

## 会長挨拶

平成6年11月の設立総会から早くも7年半が過ぎ、我が友の会も7回目の総会を開催することになりました。会員の皆様の変わらぬご支援に対し改めて感謝申し上げます。

現在、鷹山宇一記念美術館友の会の会員の状況は法人・個人を合わせて296名となっております。今年度中に、何とか300名の大台に乗せたいと願っております。さて、私たちの友の会の総会は委任状による出席(今年度は133名が多いのが特徴です。これは、万事任せるからしつかりやれという会



▲ 通常総会にて

員の意志の表れと都合良く解釈することも出来ませんが、反面私たち役員に課せられた責任の重大さも痛感せざるを得ません。

いづれにしろ友の会は、これまで3つの基本方針を柱に各種事業を実施してまいりました。

すなわち、企画展の監視ボランティア活動や入館料相当額の納付・絵画購入基金の積立及び寄付など、鷹山宇一記念美術館に対する物心両面にわたる支援。県内外の美術館博物館を対象にした研修旅行の実施や、美術講演会の開催・各種資料の購入などによる会員の自己啓発。そして、年4回の会報の発行やイベントの実施

を通じた会員相互の親睦と交流であります。

本年度もこの方針に基づき各種事業を計画しております。

さらに特別記念事業として、平成11年度に初めて実施した海外研修旅行(スペイン)に続き、平成16年のはじめを目的にイタリアルネサンズ紀行を企画しており、今後細部の計画を詰めていく予定です。また同じく記念事業基金の積立を継続いたします。

本年度も各種事業に進んでご参加下さいますようお願いいたします。

平成14年6月7日  
会長 山本洋一

## 美術館・友の会共催 美術講演会

「東郷青児展」一般公開に先駆けて、会員の皆様にご案内させていただく特別講演&内覧会です。

- 講師 工藤健志氏(青森県学芸員)
- テーマ 東郷青児(仮称)
- 日時 7月18日(木)午後6時30分から
- 会場 美術館2階工房及び展示室内
- 参加費 友の会会員の皆様は無料、当日会員登録を受付に「提示下さい」。
- 問合せ 鷹山宇一記念美術館  
0176(62)5858

# 友の会研修旅行記

■とき 5月19日(日)

■研修先 松本満史展(青森市/県立郷土館)

■王藤哲巳展(五所川原市/オルテンシア)

## 初めての

## 研修旅行

濱中 桂子

前日からの雨止まず19日の朝を迎えた。美術館友の会の会員になって初めての研修旅行と言うのに悪天候が恨めしい。

長いこと仕事に追われ「美術」「芸術」と言う文字を見るだけでもスゴク難しいものだと思いついてきたが今回研修旅行のご案内を頂き、喜んで参加してみることにした。集合場所・公民館にて皆さんにご挨拶し車に乗り込み会費を納め研修旅行の一人となり、バス最後列で待つ友人と合流。

公民館を定時に出発。数ヶ所で仲間が乗り、皆揃ったところで日程の説明があり、雨で洗い流された木々の葉の美しい、みちのく有料道路経由で目的地へ向かう。気がつく

道路が乾いている…。何かホットした気分になる。約1時間程で第1の研修会場到着。仕事で青森市に住んだが、郷土館には足を運んだことが無く初めての入館である。館内での注意があり、郷土館学芸員・對島氏の解説を聞きながら作品の鑑賞となった。

「松本満史」正直なところ名前を聞いたことが無かった。しかし絵を見ると、作品全体が自然で、色、筆のタッチが柔らかく、難しいことのわからない私でも心が和んだ。特に堤川付近の風景の作品が好きだ。モデルも奥さん、子供さんで、家族が一緒の作品が出来上がっていて平和だったように伺える。色紙に読まれていた「どん底」「恋しい夫」とかの言葉から、資料にもあったように多くの人々に慕われた由縁だ

と思う。最後に描いたと言われたラリーヌという作品

からは、優雅さ、そして気品をも感じた。郷土館を後に次の研修会場へ。津軽平野は田植えも終わりのどかな風景が続く。お腹も少し空いてきた。本当は今日の一番楽しみは朝説明があった昼食かもしれない。

12時頃予約している場所に着、美味しい食事を頂き満腹状態で出発時間まで店内をヒヤカシ、13時30分、工藤哲巳展会場オルテンシアへ向かう。間もなく会場に着きギヤ

ラリーヌがはじまるまで館内をひと回り。コレナニ? 大きな絵? 書? 文字? 全てオブジェ的なもので圧倒される。入口正面の写真は何かを訴えるような鋭い眼差しで入館者を迎え入れて居るようだ。

14時から県美術館整備室学芸員・三好氏によるギャラリートークがはじまった。最初に驚いたものは工藤哲巳と同級生の美術家・篠原有司男氏の作品で、ボクシングペイ



▲工藤哲巳展会場・五所川原市「オルテンシア」の前にて記念撮影

ンディングと言うものだ。この5月、ボクシングのグローブを使いエネルギーシユなパフォーマンスで表現されたとか…。これにも驚かされた。

工藤哲巳の作品は、解説を聞くと現代社会の状況、自然崩壊、環境汚染等による人間の生命危機、そして在り方を考え表現したかの様に感じられる。空気に触れることのできない子供がカプセルのなかで、何本もの管を口鼻から通して生きている映像を見たりするが、我々にもそんな時代がくるのでは? と恐ろしい感じがする。世相を強烈な作品で表現し現代社会の姿を50年も前から訴えていたのだろうか。

80年代の美しい糸での作品や、少年期の数々の作品でやっとシヨックから解放された。松本満史展、工藤哲巳展を鑑賞し、立派な芸術家が郷土に居られたことに誇りを感じると共に、両会場で解説をして下さった方、この企画を計画して下さい方に感謝します。ありがとうございました。

(七戸町/友の会会員)

## お★し★ら★せ

美術館でコンサート! テュオ・ルテ~北の二重奏団~

キターとフルートのやさしいひびき

とき : 7月13日(土)午後6時30分開場、7時開演

※詳しくは同封のチラシをご覧下さい。前売券好評販売中!!

特別展のご案内

# 東郷青児展

7月20日(土)→9月16日(月) 会期中無休



▶東郷青児「四重奏」1955年  
安田火災海上保険株式会社所蔵  
(7)より「株式会社損害保険ジャパン」に社名変更

鷹山宇一記念美術館では、東奥日報社、NHK青森放送局との共催により、東郷青児展を開催します。

明治30年、鹿児島市に生まれ東京で育った東郷青児は、二科会創立会員・有島生馬の知遇を得、第3回二科展で19歳にして二科賞を受賞、日本洋画界に華々しく登場をします。その後7年に及ぶフランス滞在中には、ピカソや藤田嗣治らと交友を深め、当時最先端をいく未来派などの芸術に触れ、帰国後は新傾向の画家として注目を集めました。しかし、「理屈なしに共鳴してもらえような絵を描きたい」と、「大衆のための芸術」を理想に掲げ、次第に女性像への傾倒を強め、モダンで叙情的な東郷独自の女性スタイルを確立、その作品は褪せることなく今もなお多くの観衆を魅了しています。また戦後は、解散していた二科会をいち早く再建し、リーダーとして手腕を発揮、多彩な活動を展開し、二科会を、そして美術を大衆に広めました。

本展は、二科会の重鎮として活躍をした当館収集作

▶1977年第62回二科展レセプション会場にて。東郷(右)と鷹山(左)



家・鷹山宇一と共に同じ時代を生き、鷹山に多大な影響を与えた先達、そして同輩、後輩たちを紹介する第一弾として開催するもので、大正・昭和の美術をリードし日本洋画界に一時代を築いた東郷芸術を回顧しようというものです。

安田火災東郷青児美術館(7)より「損保ジャパン東郷青児美術館」に館名変更の全面的な協力を得、その収蔵作品より初期から晩年までの油彩49点、彫刻8点、そして素描・スケッチ・扇面など50点、このほか写真や装幀本等資料により構成の予定です。是非ご高覧下さい。

## ■インフォメーション■

### ●入館料●

- 一般 ￥800 (640)
  - 高校・大学生 ￥400 (320)
  - 小・中学生 ￥200 (160)
- ※( )内は前売券及び20名様以上の団体料金。友の会会員の皆様は特典通り！

●問い合わせ【美術館】●  
Tel 0176 (62) 5858



## 😊 子どもたちのためのワークショップ 😊

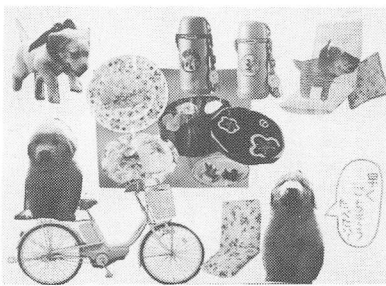
—ゲリラ的にはじめました—

大人たちにも厳しい現代社会。子どもたちを取り巻く環境も、変化の激しい多様なものとなっています。この時代を生き抜くために、今子どもたちに求められていることは「自分自身で考え、主体的に判断し、行動できる」たくましく生きる力、そして豊かな心です。そのためには、学校内外での自然体験や社会体験など「体験活動の充実」が重要であり、学校はもとより家庭や地域社会の役割が一層重視され、3者がそれぞれ連携・協力しながら一体となって取り組んでいくことが求められています。

鷹山宇一記念美術館では、今出来る限りの範囲内で美術館の特性を生かした取り組みを模索中です。その試みのひとつとして、この4月からゲリラ的にはじめたのが、子どもたちのためのワークショップです。月1回学校がお休みの日、これまでで2回開催しました。ゲリラとは言い、美術科教諭の免状を持った曾根原牧子さんを講師に迎え、雪に閉ざされるまでの間で様々な事業を計画、来年度からの本格実施を目指して試行錯誤を繰り返しながら頑張っています！次号からワークショップ 便りとしてその活動の様子をご紹介します。

七戸町創百周年記念写真集「写真展」  
9月21日(土)～9月29日(日) 会期中無休  
明治35年9月1日町制を施行し、七戸町となつて百年を迎える本年。町では今年度を百周年を祝う期間とし、様々な事業を計画しています。その一つとして、現在の七戸町の自然、その四季折々の表情を余すところなく一冊の写真集としてまとめ刊行します。撮影は十和田市出身の写真家・和田光弘氏。カラー130点を収録予定です。町主催による本展は、その一部を展示・紹介するもので、広く多くの皆様に美しい七戸町の四季を堪能していただくとういうものです。お見逃しなく！

▶子どもたち一人ひとりがテーマ(簡単なお話)を考えて作り、館内まで子どもたちのコメント付き作品を展示しています。



▲カラーの技法で作った宮崎ちひろさんの作品。テーマは、「犬の遠足パーティー」。



▲デコパージュに続いてカラーの技法を体験！切り抜きを貼り付けて作品にします



▲第1回目(4/29)となる石鹸を用いてのデコパージュの技法を体験(左側のお姉さんが講師・曾根原さん)



◀4月モデル撮影会  
美術館中庭にて



特別展終了報告  
第62回国際写真サロン展  
←「春季二科展」

▶式典にて



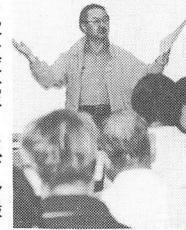
今年も当館に春の訪れを告げる特別展「春季二科展／二科会青森支部展」が、4月27日(土)から5月26日(日)迄開催されました。オープンに先立ち会期前日の26日(金)には、二科会絵画部理事の新田稲実先生をお招きし、レセプションと内覧会を行いました。今年は春の訪れが早く、ゴールデンウィークには七戸町・天王神社のつつじも満開となり、「天王つつじ祭り」と同時に鑑賞できる好機に恵まれて、会期中4,163名の来館者がありました。また、本展開催に当たり、監視ボランティアとして友の会をはじめ多くの皆様にご協力をいただきましたこと、この場を借りてお礼申し上げます。



▶新田稲実先生には遠路広島より  
お出掛けいただきました

57回展から6回目の開催となる「国際写真サロン展」。今年は4月12日から21日迄、サロンの作品ほか前年のモデル撮影会より入賞作品を、そして新たな試みとして「第12回全日本写真連盟関東本部委員展」を併催しました。10日間の会期中458名の皆様にご鑑賞いただきました。また、14日(日)には全日本写真連盟青森県本部主催による写真教室とモデル撮影会が行われ、三沢からモデルとしてBrittany Warnerさん、そしてJennifer Gallagerさんをお迎えした撮影会では、県内外から120名が参加、盛況のうちに終了しました。なお、

このモデル撮影会での作品による写真コンテストへは、応募者、作品数とも記録更新となる最多の62名197点もの応募がありました。入賞作品は来年度の第63回国際写真サロン展開催時に展示の予定です。どうぞお楽しみに。

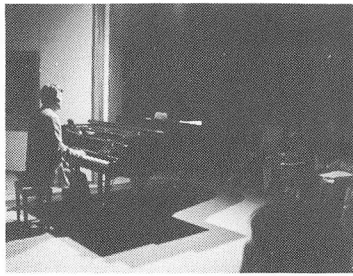


▶写真教室・モデル撮影会  
指導は山村行志先生に

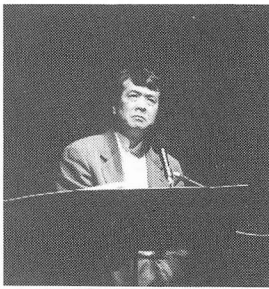
み～んなパーティー!!  
あつまれ★なんぶっ子!!  
第2回鷹山賞児童作品展  
作品募集

青森県南部地方小・中学生に作品を公募する「鷹山賞展」は、郷土の画家・鷹山宇一を顕彰するとともに、子どもたちに制作体験を通して豊かな感性を養い、自由な創造の喜びを味わってもらえたらと願い開催するものです。テーマは自由!四つ切り大画用紙以内の大きさに平面作品を募集!×切は10/14です。応募要項など詳しくは、鷹山宇一記念美術館(☎0176-62-5858)迄お問い合わせ下さい。

▶皆さんウツトリ。シャンソンを弾き語りして下さいました



▲「虔十公園林」朗読中の林氏



林隆三と楽しむ「賢治童話の世界」  
特別公演を開催しました

と き／6月9日(日)午後6時30分～  
会 場／鷹山宇一作品に囲まれた絵画室1・2

東京で生まれ、幼年期から少年期を山形県と宮城県で過ごした俳優・林隆三氏にとつて、宮沢賢治は身近な存在であり、その頃から作品にも親しんでいたといえます。この朗読公演は、林氏がライフワークとしてはじめたもので、東北弁を駆使し、賢治童話を林氏の流暢な語りと豊かな表現力で甦らせたものです。  
このたび、2つの短編「虔十公園林」「鹿踊りのはじまり」ほか、当美術館長とのトーク、そして林氏によるピアノ弾き語り、と盛りだくさんの内容で、160席満員御礼という大盛況のうちに終了しました。

**らおせし**  
T.V「開運!なんでも鑑定団」にて鷹山宇一が取り上げられました。関東地区では既に放映済みですが、青森では8月中の放送枠(ATV)で予定されており、皆様是非お見逃しなく!

- ◆七彩色絵画教室(7日)
- ◆展示替へのため臨時休館(9～11日)
- ◆第62回国際写真サロン展初日(12日、会期は21日迄)
- ◆平成14年第1回友の会役員会開催(13日)
- ◆全日本写真連盟青森県本部主催の写真教室・モデル撮影会が開催される(14日)
- ◆展示替へのため臨時休館(23～26日)
- ◆今秋開催の「郷土の作家たち展」打ち合わせのため、現代人形作家・奈里多究氏来館(24日)
- ◆春季二科展オープニングレセプション開催(26日)
- ◆鷹山館長、三内丸山アドバイザー会議に出席、於青森県庁(4日)
- ◆火曜サロン開催(12日)
- ◆七彩色絵画教室(17日)
- ◆公民館長研修視察会9名様来館(19日)
- ◆鷹山館長、新幹線協議会に出席、於青森国際ホテル(20日)
- ◆平成14年第1回理事大会開催、14年度事業計画及び予算案が審議される(25日)
- ◆平成14年第1回評議員会、財団役員懇親会開催(30日)

- 【4月】**
- ◆展示替へのため臨時休館(7日)
  - ◆展示替へのため臨時休館(9～11日)
  - ◆第62回国際写真サロン展初日(12日、会期は21日迄)
  - ◆平成14年第1回友の会役員会開催(13日)
  - ◆全日本写真連盟青森県本部主催の写真教室・モデル撮影会が開催される(14日)
  - ◆展示替へのため臨時休館(23～26日)
  - ◆今秋開催の「郷土の作家たち展」打ち合わせのため、現代人形作家・奈里多究氏来館(24日)
  - ◆春季二科展オープニングレセプション開催(26日)

- 【5月】**
- ◆鷹山館長、三内丸山アドバイザー会議に出席、於青森県庁(4日)
  - ◆火曜サロン開催(12日)
  - ◆七彩色絵画教室(17日)
  - ◆公民館長研修視察会9名様来館(19日)
  - ◆鷹山館長、新幹線協議会に出席、於青森国際ホテル(20日)
  - ◆平成14年第1回理事大会開催、14年度事業計画及び予算案が審議される(25日)
  - ◆平成14年第1回評議員会、財団役員懇親会開催(30日)

**【3月】**

- ◆鷹山館長、三内丸山アドバイザー会議に出席、於青森県庁(4日)
- ◆火曜サロン開催(12日)
- ◆七彩色絵画教室(17日)
- ◆公民館長研修視察会9名様来館(19日)
- ◆鷹山館長、新幹線協議会に出席、於青森国際ホテル(20日)
- ◆平成14年第1回理事大会開催、14年度事業計画及び予算案が審議される(25日)
- ◆平成14年第1回評議員会、財団役員懇親会開催(30日)

**美術館日記**

- ◆春季二科展初日(27日、会期は5月26日迄)
- ◆小学生を対象とした第1回目のワークショップを開催(28日)
- ◆鷹山館長、三内丸山アドバイザー会議に出席、於青森県庁(4日)
- ◆火曜サロン開催(12日)
- ◆七彩色絵画教室(17日)
- ◆公民館長研修視察会9名様来館(19日)
- ◆鷹山館長、新幹線協議会に出席、於青森国際ホテル(20日)
- ◆平成14年第1回理事大会開催、14年度事業計画及び予算案が審議される(25日)
- ◆平成14年第1回評議員会、財団役員懇親会開催(30日)
- ◆林隆三特別公演打ち合わせ、於青森市内(17日)
- ◆小学生を対象とした第2回目のワークショップを開催(18日)
- ◆友の会研修旅行、松木満史展・工藤哲巳展を鑑賞(19日)
- ◆県芸術パーク学芸員池田氏・高橋氏来館、平野四郎資料調査を行う(20～21日)
- ◆七戸小学校4年生51名、春季二科展鑑賞のため来館(23日)
- ◆春季二科展最終日、廃校となった野々上小中学校からグラウンドピアノをいただく(26日)
- ◆展示替へのため臨時休館(27～31日)
- ◆青森東高等学校1年生307名来館(30日)

友の会会員から想い出の原稿をいただきました。ここに紹介させていただきます。今後も会員の皆様、美術に関する想い出「お出掛けになった美術館や感動した作品」などお寄せいただければ幸いです。寄稿をお待ちしております。

## みやびの世界

田中 勇

人生は交響楽だと云う。終楽章に入ると前章の主題曲が次々と出てくる。我が人生もそろそろ終わりに近づいてきたのであるのか、昔のことがあれこれ思い出される。

平成12年1月より、私は毎月1回青森市より故郷である七戸町へ通っている。それは七戸時代に私の向かいに住んでいた元学校の先生より、小倉百人一首をやるうとの誘いがあったからだ。

昭和23年学校を卒業し七戸へ就職し、昭和31年弘前へ去るまでの8年間、正月だけでなく年中百人一首の青春時代であった。私は早速参加することになり、あつという間に2

年間が過ぎ去っていった。今回私が書こうとしているのは、百人一首のことではなく、それを知っていたので興味を持った、ある絵巻の物語である。

昭和58年11月3日文化の日NHKより特別番組が放映された。それは「私たちが小野小町と初めて出逢ったのは、去年の夏7月のことだった。」より始まる、小野小町の絵を求めての追跡訪問記であった。

その絵は、王朝歌仙絵巻の最高傑作と云われながら、ほとんど人の目に触れることのなかった幻の絵巻物『佐竹本三十六歌仙絵巻』の1枚である。

この絵巻は今を遡ること約780年前の鎌倉時代初期に作られたもので、後京極良経による書と詞書き、そして当時肖像画の名人で歌人の藤原信実による絵で構成されている。信実は大坂水無瀬神宮の国宝・後鳥羽天皇像を描いており、京都北野天満宮の国宝・隨身庭騎絵巻も彼の作品と云われている。絵巻は、伝承によると13世紀に「三十六歌仙」をもとに上下2巻作られたもので京都の下鴨神社に奉

納され、18世紀になって秋田藩主佐竹家の所蔵となったことから佐竹本と呼ばれるようになった。

明治維新後旧大名家からの所有品が多く売りに出され、大正6年佐竹家から出た本絵巻は35万3千円で落札されたが、大正8年に再び売りに出され37万8千円で落札された。しかし、不況で経済破綻によりとても一人で買うことが出来なかった

ので、時代の経済界を代表する三井、三菱、住友等の財界の大物が共同で購入し、みんなで分けることになったと云う。その結果、幻の国宝『佐竹本三十六歌仙絵巻』は36枚に分割された(他に住吉大明神が入っており実際には37枚)。

その歌人は、かの有名な柿本人麻呂、大伴家持、在原業平、小野小町、伊勢等で、百人一首に出てくる人々である。面白いことに、小野小町は後ろ向きで顔が描かれておらず、その理由は小野小町があまりにも美しいので描き表すことが出来なかった、そうである。また、斉宮女御は宮中の出身で高貴な方なので、ほかよ

り一段高い畳の上に座っている。値段は一般に女ものはお姫様と云われ高く、最高額は斉宮女御で4万円【時価4億円】、その次は小野小町の3万円、僧侶や黒装束の男ものは安く最低でも3千円であったと云うが、時価は総額40億円はするだろうと云われた。

絵巻分割の時、せめて元の姿をとどめようと絵巻の模写本が100組作られ、歌仙図の持ち主の37人、皇室や皇族、帝室美術館そして海外のルーブル美術館、大英博物館等にも寄贈された。

これら37枚の絵を1枚づつ探し歩いたのが放映番組「絵巻断絶、秘法三十六歌仙の流転」であり、その結果、37枚全部の居所が解った。

あの当時のままその家に伝わっているものは4点だけで、ほか33点は最初の手を離れており、歌仙図を手にした人は150人以上に上ると云う。現在の所有者は東京国立博物館、出光美術館、五島美術館、世界救世教、松下幸之助等であり、一番高額な斉宮女御は、昭和電工事件で有名な日野原節

三氏であった。

絵図は切断により国宝とはならないが31点は国の重要文化財に指定されている。しかし、一番人気の斉宮女御は未指定である。国の文化財には所有者の承諾がなければ指定することが出来ないからだそう。

その後、昭和59年1月NHKより再放送され歌仙絵図の認識はさらに高まり、同年9月に復刻絵巻が再現発刊された。

昭和61年3月、私は東京の出光美術館へ出かけた。そこには絵巻の2枚の絵があることになっており、ちょうど展示されていたのは、百人一首中一番人気があり、知って

いる人も多いであろう「天つ風雲のかよひ路吹きとぢよ、乙女の姿しほしとどめん」の僧正遍昭の絵で、780年前の姿そのままに燦々と輝いていた。もう一枚の柿本人麻呂と、そして、同美術館所蔵の国宝、日本絵図の最高傑作と云われている『伴大納言絵詞』は見ることが出来なかった。誠に残念で、またの機会を楽しみに帰ってきた。

今後36枚の絵図はどのような運命をたどり、どんなロマンが待っているのか？その後の消息については後世の人にお任せしよう。

(青森市/友の会会員)

行って来ました!! (in Y.Y TH ET Y.T)

### 福島/猪苗代近代美術館 がいの3大巨匠「ピカ、印、ダリ」展

私たち七戸在住会員4名は、朝4時に七戸町を出発!!ダリとピカソとミロに会いに少し(?)遠いのですが、友の会の方々に是非!鑑賞していただきたい作品ばかりです。次の企画は、

「印象派と21人の巨匠たち」展  
7月4日～12月1日

#### アクセス

- ◆車ご利用の場合  
東北自動車道/郡山JCT ~盤越道/猪苗代。盤梯高原ICより国道459号経由 約20分
- ◆鉄道、バスご利用の場合  
JR 東北本線/郡山駅乗り換え盤越西線/猪苗代駅より常磐高原行バスで約30分美術館前下車

# 和田聖子のローマ撮影記

前号【26号】で紹介したイタリアの写真を覚えていますか？ 彼女から旅行の思い出話の原稿をいただきました。



イタリアの空気はエスプレッソの香りをもとまって、やさしく私をつつんでくれた。

街中溢れるBARにローマーノ（ローマっ子）達は集まり、それぞれにパスタやピザを頬張ったり、香り高いカプチーノを飲んだり、シェスタ（昼寝）したり、おしゃべりしたり etc...

古い石畳の路地裏、気どらないローマは朝から夜遅くまで活気に満ち溢れてやまない。

私も何度となくBARを訪れてはこれから出会う光景を夢見てファインダーをのぞいた。

私が行ったイタリアは一昨年前、2000年ミレニアム。この年キリスト誕生2000年祭と聖年祭ジュビレオが重なり、カトリックの総本山であるバチカン市国は世界中から巡礼者を迎えた。観光で来ている私の目に映ったのは、敬虔なるカトリック教徒の信仰の姿だ。彼らの偲いに教会内のスタンドグラスから幾筋もの光が注がれて、祈りと輝きが重なりあった神秘の世界が生まれていた。

ローマのシンボル、バチカンから一步外に出ると、とたんにまた壮大な芸術作品に迷い込む。古い時代に作り上げられたベルニーニの彫刻と、その辺ごちゃごちゃと無造作に停まっているイタリア車（ローマの地下は遺跡だらけで地下駐車場が作れないため）なぜかこんなシーンがとてまかつよく見えて、今も昔もローマーノの美意識の高さにため息がでる。若者達が集まる通りなど撮影で歩き回っていると、よくナ・カ・タ！ナ・カ・タ！と笑顔で声をかけられた。ローマでも中田は英雄なんです。ここローマでこんな気さくな人々の生活が隠れているのを見つけてから、この街がたまらなく魅力的に感じられて...

さらにそれをフレームにおさめる事が出来た時には、ものすごく幸福になった。こうしてローマに別れを告げてルネサンス発祥の都市フィレンツェへ...

これから友の会研修旅行で2004年イタリアにお出かけの皆さん、どうぞステキな旅をして来て下さいね!!  
チャオ!



▲コロッセオ前にて。和田聖子さん  
▲26号に続いて街角のスナップより。カラーでお見せできないのが残念！イタリアの空気を感じてみたくなる、そんな一枚です。

## 秋の研修旅行のご案内

先般の総会で

下記のとおり研修旅行の開催が承認されました。

詳しくは、後日ハガキにてご案内します。

記

とき 9月29日【日】

研修先 ①弘前市立博物館  
「ミレーとバルビゾン派の作家たち展」  
②弘前市内／吉井酒造煉瓦倉庫  
「奈良美智展」

## 編集後記

先日、美術館の絵画室での林隆三の公演はとて面白い感じで、また聞きたいと思ったのは私だけでは無かったと思います。これからも美術館コンサート等を企画してほしいですね。  
毎回、会報の発行月は、編集をするために美術館に通っています。職員の皆様、コーヒーマスターの皆さん、ありがとうございます。

## 監視ボランティア募集!

詳細は美術館までどうぞ!!  
0176(6)5558

前回の二科展では多くの会員の皆様に、お忙しい時間をさいいただき、監視ボランティア等ご協力を賜りました。ありがとうございます。これからの特別展でも、美術館ではボランティアを募集しております。ご興味のある方、是非ご参加下さい。

## お☆し☆ら☆せ

●美術館でお呈茶●  
「東郷青児展」会期中の  
8月25日(日)

茶道裏千家淡交会青森支部  
十和田青年部  
の皆様による  
お茶とお菓子のサービス  
がございます  
是非  
この機会に  
ご来館いただき  
豊かなひとときを  
お過ごしただけなら  
幸いに存じます